

越山若水

2021.3.14

越前市出身の絵本作家、かこさ

としさんが自著「子どもと遊び」

で書いている。わんぱく、おてん

ば盛りの子どもがエネルギーを発

散させるには楽しむこと、それが

「遊び」である▼同市には、子どもたちのためにかこさんの作品をモチーフとした、てんぐちゃん広場やだるまちゃん広場があり人気スポットだ。「あそび」をテーマにした企画展が武生公会堂記念館で開かれているというので足を運んだ。現代から過去まで多彩な遊びを堪能できた▼中でも囲碁。同市ゆかりの紫式部の「源氏物語」に描かれていることが紹介される。中国の歴史書には、7世紀に日本人が囲碁で遊んでいたという記載があるという。遊びから日本特有の文化となった「合かいあわせわせ物」の中でも貝の美しさを競う「貝合」は興味深い。ブラジル人のじゃんけんなども取り上げている▼「遊」といえば、「知の巨人」ともいわれる、漢字学者の白川静さんの一番好きな文字として知られる。生誕の地の福井市大手3丁目にある記念碑には、「遊」の直筆が刻まれる。白川さんのいう「遊」はこつ解釈される▼神様が自由に行動するという意味だったが、後に人間が心のおもむくまま行動し楽しむ意味となった。また白川さんは、最高の生き方は自然と合一することで、自然になるには遊ぶのがよいと説く。重苦しいコロナ禍の中、せめて遊び心は忘れまい。